

県央・林業部トピックス（1月号）

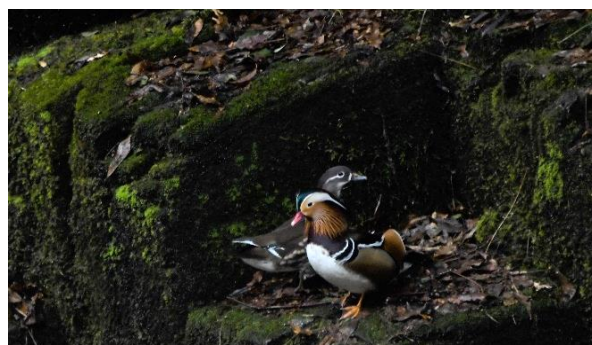
ガンカモ類の生息調査を実施しました。

1月13日、16日に「第55回ガンカモ類の生息調査」を実施しました。この調査は環境保全や鳥獣保護区設定、鳥インフルエンザ対策等に活用するため、昭和45年から全国各都道府県で実施している歴史ある調査です。対象種であるガン・カモ・ハクチョウ類の渡来地である河川、湖沼、湾で鳥の種類、数、調査地の環境を記録していきます。県央管内では江の川を中心に、二級・準用河川、ため池等で調査を実施しました。大田市・邑智郡で確認できたのは10種、599羽で例年並みの結果でした。調査全体のうち4割程度がカルガモでしたが、一部でオシドリやハシビロガモ、カワアイサなど色鮮やかな水鳥も確認できました。トモエガモは県央管内では確認できなかったものの、宍道湖では大量に飛来しています。トモエガモは2000年代に数が激減して、世界的に絶滅が危惧されていましたが、令和3年度に江の川で多くのトモエガモが確認されています。例えば繁殖地で数が増えたのか、日本での越冬地が変化したのか理由は分かりませんがトモエガモはオシドリ同様ドングリを好んで食べているので、シイ・カシ、コナラ・クヌギ類の多い島根県は魅力的な場所なのかもしれません。カモ類が多くなりすぎると、鳥インフルエンザや農業被害の懸念はあります。今後も推移を注視していきたいと思います。

ガンカモ調査と合わせて、鳥インフルエンザのパトロールを実施しましたが、感染により死亡・傷病の鳥は確認できませんでした。今年は昨年と比べると、野鳥・家禽ともに鳥インフルエンザの報告件数は全国的に少ないですが、感染症の流行りは数年単位で波がありますので引き続き注意は必要です。



調査地（溜池）



オシドリ（雄、雌）



ハシビロガモ（雄）



コガモ、ハシビロガモ、マガモ